

ユニコム 通信

Universal Community

創刊号

ユニコムかつしか機関誌

<http://uc-k.net>



いま、なぜ、NPOか

代表理事 大島 進

NPOとは、ノン・プロフィット・オーガニゼーション＝非営利組織の略。読んで字のごとく、利を営むに非ず。利益が上がつたからといって株式会社のように株主に利益を還元できない。もちろん会員や役員に利益を分配することもできない。

といって利益を上げてはいけないということではない。収入から費用（会の活動に要する人件費などの諸経費）を差し引いて剰余金が出たら、それを組織の目的に再投資することが原則ということである。

ユニコムかつしかの前身の葛飾ITクラブも広い意味でのNPOである。ただ、クラブの時は任意団体だったが、ユニコムかつしかは法人（申請中）。そこが違う。任意団体では例えば行政との契約も個人名義でしかできない。法人となることで事業活動の範囲を広げられ、組織の目的も達成しやすくなる。同時に社会的存在というウエイトも重くなり、会員の自覚も必要である。

ところで最大の非営利組織はどこか？ それは政府・行政機関である。が、NPOとは呼ばない。民間組織が前提だからだ。そのNPO、会員サービス型と公共サービス型とに大別され、定款で地域コミュニティづくりを謳うユニコムかつしかは後者である。

公共サービスの担い手は政府・行政機関に限らなくなっているのが時代の潮流。といってこれは必ずしも「官から民へ」の意味ではなく、むしろ官と民が協働して新しい「公」を作る流れであると捉えたい。その意味でNPOは新しい市民活動を担う組織ということもできる。

Nはニュー、Pはパブリック。そう書いてあったNPOの本もあった。時にそう受け止めてみるほうが、私たちの進むべき道をよりよく表してくれるのではないか、そんなふうにも思っている。

「わがまま」(Zao)

2004年9月に特定非営利活動法人の認可を受けた子育て支援NPO。

実働は代表の井上博文さん、隆子さん夫妻と娘の中田望さん、友人の山本直子さんと、四人だけの小さな団体だが、新小岩北集会所で、区と協働事業の子育てひろば「わかば」を運営している。

「わかば」は、核家族で相談できる人がなく、子育てに悩む初めての母親たちに、友達作り、情報交換の場を提供するもの。

毎週火、水、木曜日オープン。午前十一時～午後一時までは子連れママに無料開放。

午後一時～三時は登録制で、火曜日は一歳未満、水曜日は一歳から二歳未満、木曜日は二歳から三歳未満の子と、その新米ママさんが対象。保育士が子供の相手をしている間にゆっくりお茶とケーキを味わえる「母親の時間」もある。

費用は、お茶とケーキ代を含んで月に二五〇〇円。

事業を提案したとき「お母さんがお茶を飲むのがそんなに重要」と言われたそうだが、企画は採用された。子供や老人に対する虐待事件が増えている。「密室で向き合っているいいことない」という発案者の言葉が説得力を持つ。

保育士の資格を持つ望さんだが、実際に子を持って戸惑うことも多く、お婆ちゃんの出番は予想外にあった。

紹介



「コミュニティビジネス講座」を受講して、NPO設立を決めた。隆子さんは在宅ヘルパーの資格を持ち、博文さんはコンピュータの仕事をしてきたので、介護と、ITと、子育て支援を柱にしたが、今のところ「わかば」で手一杯。

ケーキの配達やセットは白鳥福祉館に頼んでいる。障害者の雇用にも寄与したいからだ。いろいろな優しさに触れながら親も子も成長してほしいと願っている。そのためには地域の人たちのさまざまな手助けが欲しい。

「ユニコムかつしか仲間になれて、ネットワークが広がり、私たちの情報もより多くの方に伝わり、活動が広がることを期待しています。よろしくお願ひします」

ユニコムかつしか 役員業務分担

代表理事	大島 進	総括・広報・(IT講習会事務局)
副代表理事	庄司 敏浩	総括補佐・IT事業
副代表理事	竹馬 正己	総括補佐・障害者事業・総務
理事	石本 紀子	新規事業・会員講習会事業
理事	瀧澤 一郎	渉外・企業連携企画
理事	堂面 知子	新規事業
理事	洙田 一彦	たつみ敬老館事業・経理
理事	矢野 清彦	シニア情報生活アドバイザー養成講座事業
監事	金谷あや子	業務執行状況及び財産状況の監査
監事	諏訪 満	業務執行状況及び財産状況の監査

「PCC葛飾」

PCC葛飾は、2001年4月に設立、今年で六年目の団体です。主に、障害者対応のパソコン講習会や学習会を企画、開催しております。

「誰もが当たり前に参加できる社会作り」を目指し、社会参加のツールとしてパソコンやITを利用できるようパソコンボランティアがサポートしながら技術の習得に励んでいます。

また、PCC葛飾の特徴として、障害種別はまったく関係なく、どんな障害であろうと変わりなく対応できるサポーターの技術習得にも力を入れております。併せて、障害・健常も意識することなく同等な立場として接し、ユニバーサルな環境の中で講習会や学習会をおこなっています。

主に拠点は、葛飾区地域福祉障害者センター（ウエルピアかつしか）で、自立生活支援センターとの協働で初級講座なども開催しています。今後の予定として、障害者の在宅就労支援事業や、葛飾区におけるITサポートセンターの設立なども目標にしています。

現在、PCC葛飾の会員は約七〇名で、メール

グループ



もっと馴染んで、そこから社会進出への第一歩が歩めるのではないかと考えています。まだまだ葛飾区には、そのような場所が少なく、また、サポートできるパソコンボランティアも不足している状況であります。

今後は、葛飾区及び近隣区の障害当事者もサポートしていきたいと考えていますが、そのためにはパソコンボランティアの育成にも力を入れていかなければならず、ユニコムかつしかの協力が不可欠です。ユニバーサルなパソコン活用を深めることは、ユニコムかつしかのみならず、大いにプラスになると確信しております。PCC葛飾が、すべての葛飾区民のプラットフォーム的存在になれるよう、よろしく願います。

会員を含め

ると一〇〇名近くの障害当事者、健常者が集まっています。

もっと障害当事者が自由にパソコンを利用できる環境が増えると、



ふれあい

特定非営利活動法人（申請中）ユニコムかつしかの機関誌がいよいよ創刊されました。

この機関誌を基に葛飾区内の全ての人々が安心して、笑顔が絶えない地域づくりに関わっていくことができるようになれば幸いです。

近年の世の中の状況をみますと、目を覆いたくなるような悲惨な事件・事故が毎日のように報道されています。

どの事件・事故に共通する事項として「コミュニケーションの希薄」が痛感されます。

地方自治体とそこに住む住民が、全面的な信頼関係で話し合い、関わりあいというのが皆無の状況であると思わずにいられません。

そのような状況下でどのようにコミュニケーション作りをしていくかと言うことが、特定非営利活動法人ユニコムかつしかに課せられた課題だと思っております。

「誰もが当たり前前に参加できる地域コミュニケーションの場」としてユニコムかつしかが架け橋となることを期待しております。（竹馬正己）



ユニコムかつしかの歩み

平成14年(2002年)

7月:前身母体の葛飾ITクラブ設立

7月:テクノプラザパソコン講習会開始

7月:PCC葛飾障害者IT講習会ボランティア参加

平成16年(2004年)

1月:シニアパソコン指導者養成講座

4月:たつみ敬老館パソコン講座

6月:オープンハウス金町パソコン教室

平成17年(2005年)

6月:「暮らしを彩るIT講習会」アドバイザー派遣協力

9月:(財)ニューメディア開発協会の認定団体となり、「シニア情報生活アドバイザー養成講座」開始

平成18年(2006年)

5月:葛飾ITクラブ解散

ユニコムかつしか設立



市民活動支援センターまつり

- 日時:10月8日(日) 10時~17時
- 場所:市民活動支援センター 葛飾区立石3-12-1
- 催し物
 - ・シンポジウム
 - ・市民活動団体ブース展示
 - ・フリーマーケットほか

参加して盛り上げよう!!

編集後記

「花いっぱい」の原稿を書いていたなら「城東タイムズ」が届いた。青木勇区長が定例区議会の冒頭に、重点事業の筆頭に「元気なこどもの育つまち」を挙げ、その取り組み例として「小岩北集会所のNPOの運営による子育てひろば」に言及したという。

在宅の子育て家庭への支援の重要性は区長も認識しているようだが、それを担うNPOへの支援は、物心両面で十分ではないようだ。

利用者が良いサービスを受けられるためにも、NPOを企業に替わる安上がりの下請けと思ってもらっては困る。そのためにも、私たちが共に考え、声を上げていかなければならない。(志)

総務から

総務の業務は、会員管理、事務局や事務所の管理など諸々あります。

縁の下の力持ちとしてユニコムかつしかの土台を支えて行きたいと思っております。今後とも、宜しくお願い致します。

特定非営利法人(申請中)ユニコムかつしかの総務は以下の五名で構成されています。

担当理事 竹馬正己
執行部 五十嵐徹・副松一磨

長谷川美江子・中川千鶴